

## 行政評価について

### 1 目的

「区民とともに進める新時代のしながわ」の実現のため、より実効性の高い施策展開に向けた事業内容の充実や、中長期的な視点からの施策のスクラップ・アンド・ビルドを行っていくなど、事業の不断の検証、見直し、改善等を進める。また、その結果を予算に的確に反映させていくマネジメントサイクルを確立させることで、「区民の幸福（しあわせ）」の視点から真に必要な行政サービスに資源を振り向けることを目的として実施する。

### 2 実施概要

#### (1) 事務事業評価

##### ①基本的な考え方

各事務事業の進捗状況を把握し、改善・見直しを図るため、「品川区新公会計制度基本方針」に基づき、財務諸表（行政コスト計算書・貸借対照表）を活用した事務事業評価を実施する。

##### ②対象事業

令和5年度予算事務事業の小事業

##### ③スケジュール

令和6年5月	職員向け説明会の開催
6月～	各所管部局による事務事業評価シートの作成
9月	行財政改革特別委員会報告
令和7年1月	事務事業評価の最終決定
2月	行財政改革特別委員会報告、議会への評価結果資料提出
3月	評価結果の公表

#### (2) 政策評価

##### ①基本的な考え方

政策を実現するための手法、手段、計画に対する達成度などを明らかにし、区民の意見を区の施策に反映させ、区民とともに区政を進めていくため、区民・有識者等で構成する評価委員会を設置し、区民意見を踏まえた政策評価を実施する。

②委員構成

学識経験者 3 名、区内関係団体代表 4 名、区内大学在学者 2 名、公募区民 2 名

③評価対象分野

地域社会

(参考：令和 5 年度) 防災・強靱化、環境 (SDGs)

④スケジュール

令和 6 年 5 月	政策評価委員会における公募区民の募集開始
7 月	政策評価委員決定
8 月～	事前検討会開催 (2 回)
9 月～	政策評価委員会開催 (3 回)
令和 7 年 2 月	行財政改革特別委員会報告、議会への評価結果資料提出
3 月	評価結果の公表

## ウェルビーイング・SDGs推進ファンドについて

### 1 目的

区の財政や人的資源に限りがあるなか、求められる公共サービスが多様化・複雑化している。民間事業者や地域団体、大学、研究機関等と区が連携し、SDGsに資する地域課題・行政課題の解決をめざす。

### 2 概要

地域課題・行政課題の解決を図る民間事業者や地域団体、大学、研究機関等が行う新たな技術やサービスを用いた事業に対して助成を行うことで、多様な区民ニーズに対応し、区民のウェルビーイング向上を目指す。

### 3 実施方法

区の50,000千円と民間企業等から募る出資を原資とし、実行委員会にて、補助対象事業の審査や決定、評価等を行う。

### 4 今後の予定

令和6年9月頃 ファンドを活用した事業への補助・事業実施

- ・子どもの柔軟な発想を社会課題の解決に活用する仕組みと、民間企業のソリューションと社会課題を結びつけるためのプラットフォームを構築する。
- ・民間企業がより自発的にSDGsに資する取組を推進していくためのインセンティブとなる制度を設計し、**自律的好循環の形成**を図る。

しながわSDGsパートナーシッププロジェクト  
～「子ども」・「産」・「学」・「官」による共創～

◆ 3つの特徴



多様なステークホルダーとの連携

- 関係団体、事業者、区民との連携を推進するほか、区の未来を担う子どもの柔軟な発想力を取り入れる。



マッチング促進による連携事業創出

- ニーズ（地域課題）とシーズ（サービス、ソリューション）の積極的なマッチングを図る。

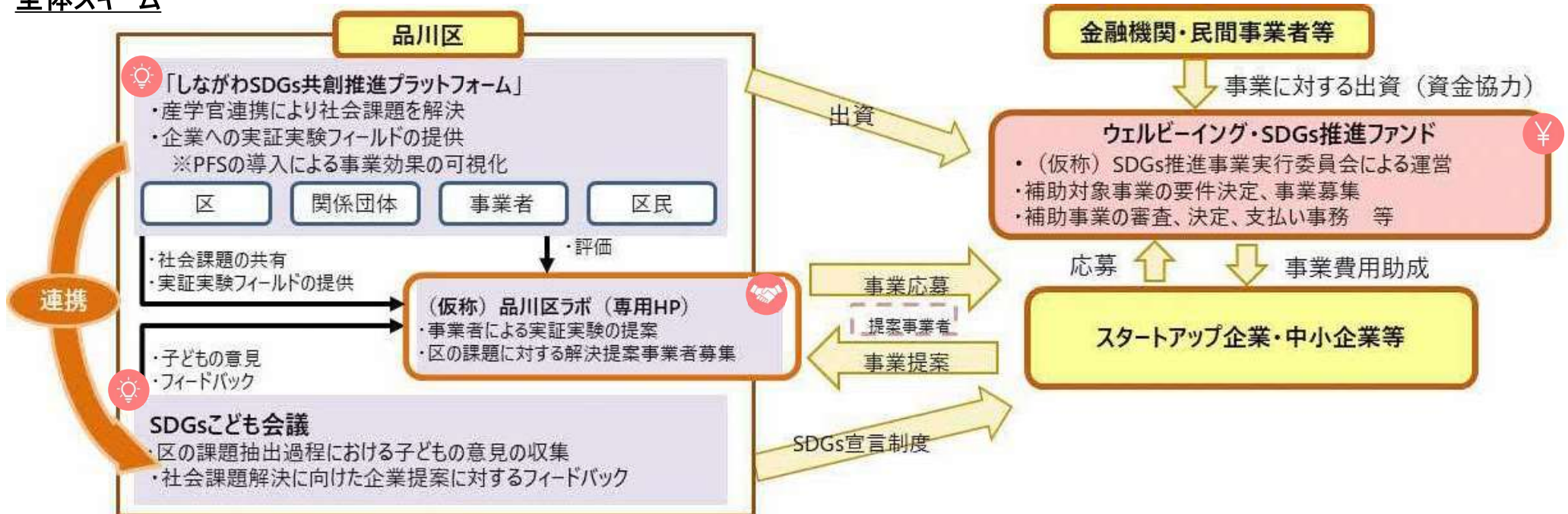


持続可能な資金調達スキーム

- 区の財源だけに依存しない、民間資金を活用する資金調達フレームを構築する。

多様かつ柔軟な意見の吸い上げ、新たなソリューションの活用、民間資金の積極的活用により自律的好循環を形成

全体スキーム



### 3. 財源・事業の評価に関すること(ふるさと納税について)

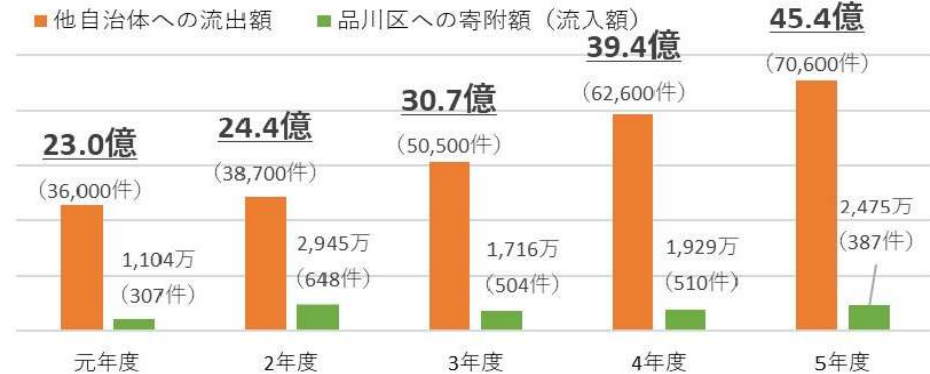
行財政改革特別委員会資料  
令和6年6月11日  
企画経営部 税務課

#### 1. 現状

ふるさと納税による区の減収額は毎年大きくなっており、区の財政運営に大きな影響をおよぼしている。

令和5年度は、流出額約**45.4億**円に対し、流入額は約2,475万円である。

#### ふるさと納税 流出・流入額推移



#### 2. 令和6年度の取組み方針

国に対して制度の抜本的な見直しの要望を継続的に行うとともに、財源確保の観点から、以下の2つを強化する。

##### ①体験型返礼品の追加・拡充

地元企業等と連携し、地域資源を活用した体験型の返礼品の開発。

(例：フライトシミュレーター操縦体験 など)

##### ②クラウドファンディング型ふるさと納税事業の拡充

多くの方から理解・共感を得られる応援プロジェクト型の事業への寄附募集の推進。

寄附の具体的な使い道を明確にすることにより、寄附者の思いを区政に反映、寄附増を目指す。

「ウェルビーイング」、「区のブランディング」、「区民参加」、「地域課題等の解決」の観点から、多くの方から理解・共感を得られそうな事業を選定。